

新規参入に向けた就農計画の検討

【対象：農業研修生1名】（渡島北部支所）

令和4年

1 課題の背景

八雲町地域担い手センターでは、新規参入希望者の研修受け入れを積極的に行ってきた。

しかし、支援体制が未整備のまま受け入れを進めたことにより、研修生が就農準備を開始する段階になって、経営目標が達成できない、条件不利地しか選べない等の問題が起こった。

そのため、新規参入に向けて施設園芸で農家研修中のH氏について、就農計画の検討を進め、就農可否の判断材料を提供するため支援を行った。

2 活動内容（経過）

(1) 新規参入に向けた研修会・検討会の開催

就農までに必要となる手続きの説明、経営シミュレーション、直近の参入事例紹介等を行った。

(2) 現地巡回

研修実施状況の聞き取り、栽培技術資料の提供等を行った。

3 活動成果

H氏が希望する施設園芸経営で、直近の参入事例を参考に無理のない試算を行った結果、経営目標が達成できない事を理解してもらった。

地域担い手センターで検討会を開催し、関係機関の情報共有が出来た。H氏の研修状況、研修先評価は良好だが、現状の条件で就農することは困難であるとの判断で一致した。

H氏の経営収支試算

(単位：千円)

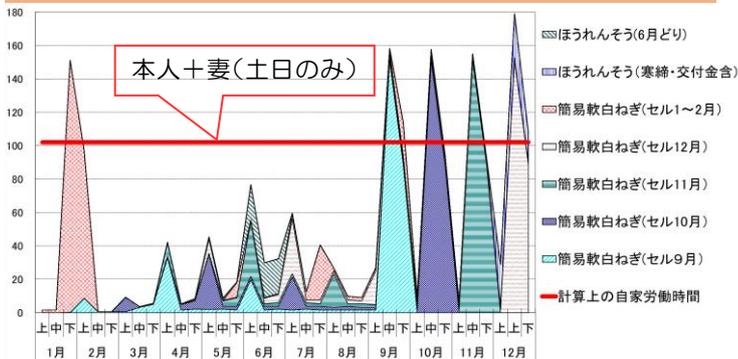
軟白ながねぎ：5棟
ほうれんそう：1棟
(年2作型)

資材の高騰により
償還額が増加
※償還期間 17年

科目	就農1年目	2年目	3年目	4年目
農業収入	5,762	7,872	7,872	7,872
農業支出	5,757	5,541	5,251	5,251
償還額	1,721	1,721	1,721	1,721
助成金	6,500	1,500	1,500	—
差引残金	4,784	2,110	2,400	900

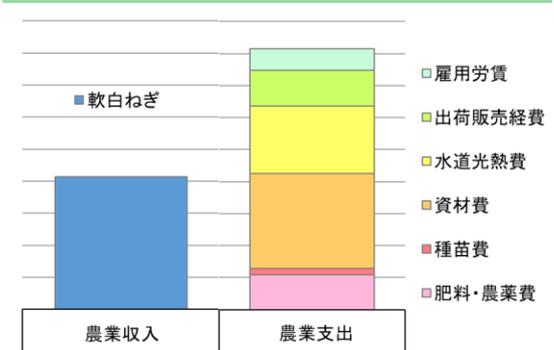
助成金の交付が終了する4年目以降、残金90万円となり、家計費の確保ができない。

H氏の労働時間試算



収穫期の労働力が不足

直近の参入事例



労働力不足が主な要因となり、収支マイナス

4 今後に向けて

八雲町で安定して新規就農するために必要な支援体制を、地域担い手センターで再検討していく。

